

インフラ事業 運営参入

機械式駐車・航空旅客搭乗橋…

新明和、長期ビジョン

新明和工業は機械式駐車設備や航空旅客搭乗橋などの社会インフラ（基盤）事業で、運営まで手がけるビジネスを目指す。情報通信技術（ICT）やM&A（合併・買収）などで運用の効率向上、運営業務の取り込みを図る。事業を伸ばしている東南アジアなどで開拓する。モノづくり中心から脱して価値を生み、2030年度（31年3月期）の売上高目標4000億円以上（20年度は2092億円）に近づく長期計画を押し進める。

機械式駐車設備では遮断機、入出庫誘導など力を高め、運営受託も単体のみや保守の受注から、平面式や車路、客の課題解決の提案、東南アジアで最大の納入数を占める航空旅客搭乗橋では、人工知能（AI）による航空機への完全自動装着をすでに可能にしている。今後はICTも駆使し、新明和工業のエレベーター方式駐車設備（イメージ）



して運用効率を一段と向上させる。

東南アジアではタイで特装車部品や水中ポンプを製造し、駐車設備の受注も増やすなど、事業基盤を拡大している。運営業務ではM&Aや連携で専門事業者らの力を借りて補い、成長市場の東南アジアなどでビジネスの高付加価値化を狙う。

国内では21年に、奈良県の自治体から家庭ゴミなどを中間処理する再資源化推進施設的设计・施工、運営も一括受託した。

新明和工業はほかにも航空機部品や国内トップクラスの特装車、ポンプなど流体機器、産業機械と多様な製品を強みとする。ただ国内市場やモノづくりだけでは伸びを見込めず、新たな事業モデルの創出に取り組む。

18年には電気自動車（EV）向けなどで成長を見込める韓国のリチウムイオン電池製造装置メーカーを買収。飛行ロボット（ドローン）やヤマハ発動機との協業による次世代小型航空機の事業化にも挑戦している。